

# ぬいぐるみシアター「畑のおはなし」

守川 美輪

The stuffed goods theatre  
“The stories of vegetables in the field”

Miwa MORIKAWA

## 1. はじめに

本学保育科開設科目「子どもの食と栄養」担当教員が夏季休暇中の課題として保育科2年生に「食育の媒体」製作を課している。「食育の媒体」とは、幼児へ向けての「食の教育」をする際に使う紙芝居等の教具のことである。学生は自作の媒体を使って、「子どもの食と栄養」の授業の中で模擬保育（10分程度）及び研究討議（5分程度）を行っている。著者は美術担当なので、何を製作したらいいのか学生からの相談を受けることが多い。その際、著者はパネルシアターやエブロンシアター等の資料を紹介していた。また、学生が製作した食育の媒体を使った演じ方の指導をすることがあったが、そこで学生が扱っているのが3色食品群という内容が多く、もっと簡単な内容で野菜に親しめるような教具が出来ないかと考え、作成したのが「畑のおはなし」である。

## 2. 畑のおはなし

### (1) 製作方法

#### ①畑

畑は布クッションと土台の木箱から成る。土に見立てた直方体の布クッションは70cm×60cm程度の焦げ茶色の綿ブロードを中表に二つ折りにし、縫い代を1cmとし、後で綿を入れる10cm程度の入り口を残して周囲をミシンで縫う。短辺の周囲の1/4の長さのマチを先に縫った目と垂直になるように定規で測り、印を付け、ミシンで縫う。上下のマチ部分の頂点を側面に縫い付け、裏返してポリエステル綿を入れ、綿の入口をかがり縫いする。

木箱は外寸高さ20cm幅65cm奥行40cm及び高さ50cm幅37cm奥行32cmの2種類を製作した。両方の箱の側面に、上辺から5cm下方中央に両端を半円形とした幅12cm高さ3cmの穴を開け、持ち手とした。板材を切り、木工用ボンド塗布後釘打ちをし、組み立てた。低い箱はさくら色の水性アクリル塗料で仕上げ、高い箱は着色せずワックスで仕上げた。

低い箱には布クッション4個を長方形の面が出るように寝かせて並べて使う。高い箱には布クッション4個を正方形の面が出るように立てて入れて使う。

また、著者は平成25年度大学美術教育学会において「ぬいぐるみシアター『畑のおはなし』」というテーマでポスター発表をした。その際に実物も数点持ち込みたいと考え、持ち運びに便利な布袋状の土台を製作した。布は焦げ茶色とベージュを使い、裏表使えるようにした。口には紐を通し、縛ることができるようにした。布クッションは2本寝かせて入れることができる。軽く、持ち運びに大変便利な畑となった。

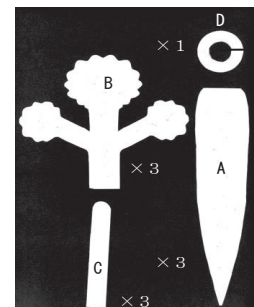


#### ②野菜

土に植えた野菜を抜いて見せるという発想から、野菜は根菜とした。フェルトを使って製作し、糸は刺繍糸を使用した。野菜を立体的に成形するため、人参や大根、玉ねぎなどの食用部分は3枚はぎとした。葉は図鑑等を見て型紙をつくり、その特徴を簡潔に表現した。茎には綿の他、細い針金を入れた。茎をおおよそ3本にすることで、すっきりとした野菜となった。

右図は型紙の例（人参）である。Aは食用部分であり、二つ折りにした紙に描き、左右対象となるように型紙をつくる。人参色のフェルト3枚の上に型紙を置き、待ち針で留めて、3枚同時に切る。Bは葉であり、これも左右対象になるように型紙をつくり、3枚切る。2枚は緑色、1枚は黄緑色というように、色の組み合わせを変えてもよい。Cは茎の部分で、3枚切る。Dは人参の食用部分と葉をつなぐ部分で、ドーナツ型に1枚切る。色は黄色か橙色にする。

縫う手順を次に示す。Aを2枚重ねて片側である右半分を上部を残して刺繍糸でかがり縫いをする。その後、3枚目を縫っていない左側に重ね、左半分を上部を残してかがり縫いをする。そして、残った部分を重ねて同様にかがり縫いをする。3枚



はぎにした人参に綿を入れて形を整える。まず、葉 B に茎 C を重ねて片側をかがり縫いにする。葉にはワイヤーを入れるが、ワイヤーがはみ出ないように、ワイヤーの先を丸くしておく。細く伸ばした綿でワイヤーを包み、葉と茎の間に挟む。その後、残った茎の右半分をかがり縫いする。葉が 3 枚完成したら、葉の下から出ているワイヤーを丸くし、綿で包んで人参の食用部分に差し込む。D で 3 本の葉を包み、周囲をかがり縫いする。葉が合わさった部分も固定するように縫う。

野菜に目と口をつけてみたが、そうすることで大変親しみやすくなった。また、お話をする際に野菜を動かしながら話すことで、野菜自身が話しているように演じることができるようになった。野菜の目は一部市販の動眼を縫いつけた。動眼を使わない場合は、フェルトを切って木工用ボンドで接着した。口もフェルトを使っている。

## (2) おはなし

何種類か作成したおはなしのシナリオを示す。

第 1 話は「ゆずりうけた畑」。畑が荒れてしまっているのを、子どもたちと共に石ころを拾って整える。楽しくするために、埋蔵金を発掘する要素を含めた。石に見立てているのは布に「じゅず玉」を入れてつくった「おじゃみ」である。石以外に埋まっているものはホームセンターで購入した木製の部品である。

### ①ゆずりうけた畑

おはようございます。私は〇〇といます。

畑のお話をします。よろしくをお願いします。

これは、わたしが母からゆずり受けた畑です。

これからこの畑を大切に、野菜を育てていこうと思っています。

なにか、一つ野菜が出来ているね。

抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか めいてみよー

何だろうね。ごつごつした形で、所々、ピンク色。何だか分かるかな。

(ヒント 大人は、これをすりおろして、冷ややっこに乗せて食べます。)

子ども：(しょうが。)

よく知っているね。これは生姜です。生姜には、体を温める力があります。

かぜをひきそうな時に、生姜紅茶を飲むといいですよ。

この白いは石ですね。この畑は石ころだらけ。

誰か、石を取り除くのを手伝ってもらえませんか。(子ども手伝う)

いっぱいあったね。ありがとう。(子ども戻る)

皆のおかげで、いい畑になりました。

母は、この畑には埋蔵金が埋まっていると言っていました。

埋蔵金はつぼに入っているそうです。

誰か、探してくれますか。深い所にあると思うのだけれど。

(子ども手伝う)

ありがとう。堅いものを見つけたら、取り出してください。

長い円柱：これは筒かな。

短い円柱：これは太鼓かな。

円錐：これはとがっているね。何かな。

壺：あ、これこれ、この壺にお宝が入っているのかも。持って帰って開けてみるね。

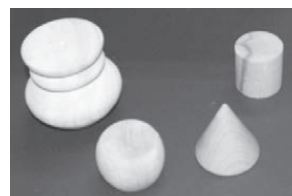
他にはないかな。ありがとう。(子ども戻る)

お宝も見つかったし、石ころもなくなって、ふかふかのいい畑ができました。

どんな野菜をそだてようかしら。

今日のお話はこれでおしまいです。

歌：はーたけ はたけ いいのができた いいのができて おしまいよー



第 2 話は「たまねぎさん」。たまねぎが私は何かと問いかける。お話の後、新玉ねぎを見せたり食べたりする。新たなまねぎが店頭で並ぶ時期に演じるとよい。

### ②たまねぎさん

これから畑のお話をします。

もう野菜が出来ています。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか ぬいてみよー  
なんだろうね。葉っぱがとんがっているよ。土の中のものは丸くて白い。何だか分かるかな。

子ども：(かぶ。)

かぶかな～。

かぶ登場：わたしがかぶよ。それとはちがうわ。よく見て頂戴。

玉ねぎ：そうよ。わたしはかぶじゃないわ。よく見て頂戴。

どろがちがうのかな～。子ども：(葉っぱがちがう。)

そうだね。かぶの葉っぱは大根の葉っぱに似ているね。

かぶ：そうよ。わたしと大根は仲間なの。

そうか～。野菜にも仲間があるのですね。かぶと大根は仲間なのですね。

玉ねぎ：わたしの葉っぱは何の葉っぱと似ているかな。子ども：(ねぎ。)

玉ねぎ：そう、ねぎ。わたしは何かな。子ども：(玉ねぎ。)

玉ねぎ：あたりです。わたしは新玉ねぎ。玉ねぎが好きなお友だちは手を上げてくれるかしら。

(子ども手を上げる)

玉ねぎ：あら～。いいわ。玉ねぎを使った料理には、どんなものがあるかしら。子ども：(カレーライス。)

玉ねぎ：いいわね。子ども：(ハンバーグ。)

玉ねぎ：いいわね。新玉ねぎは生でもおいしく頂けますよ。玉ねぎだけをつかった料理はあまりないけど、玉ねぎは、他の食材と一緒にしておいしくなるのよ。今日はせっかくですから、玉ねぎのことをひとつ教えてあげるわ。お店で売っているたまねぎの皮は何色かしら。子ども：(茶色。)

玉ねぎ：そうね。茶色。わたしは真っ白だけど、土から出て、部屋の中になら下げておくと、だんだん外側の皮が茶色くなるのよ。今日は二つ新玉ねぎを持って来たから、ひとつは、薄く切って、生で食べてみてね。無理にとは言わないわ。食べてみようかな、と思った人だけ食べてみてね。新玉ねぎを好きになってもらえると嬉しいわ。もう一つの玉ねぎは部屋につるして、だんだん皮が茶色くなるのを見てくださいね。それじゃあ、さようなら。

たまねぎさん、ありがとう。さようなら。二つ新玉ねぎをもらったね。どうでしょうか。

子ども：(ひとつ食べる。)

そうだね。食べてみたいお友だちはいるかな。(子ども手を上げる)

じゃあ、後で、切ってくるね。ドレッシングをかけようか。子ども：(ドレッシングをかけるなら食べたい。)

そうね、食べたくなった人は後で食べましょう。残りの一つはどうでしょうか。子ども：(部屋につるす。)

それがいいね。部屋につるしましょう。今から、紐で部屋につるしてみよう。

第3話は「ごぼうくん」と「ごぼうくんふたたび」。「ごぼうくん」の話の後、ごぼうを触ったり、洗ったりすることを想定している。「ごぼうくんふたたび」ではごぼうが持って来たごぼうチップスを話の後で食べる設定である。

### ③-1「ごぼうくん」

これから畑のお話をします。もう野菜が出来ています。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか ぬいてみよー

なんだろうね。あれ、長いね。やっとなめきました。何だか分かるかな。子ども：(ごぼう。)

そう、ごぼうだね。あれ、このごぼう目があるよ。

ごぼう：ぼくは、話ができるごぼうだ。

話ができるのですって。

ごぼう：ごぼうが好きな子どもは手を上げてみる。(子どものうちの何人かが手を上げる)

いいぞ。ごぼう料理にはどんなものがあるか教えてくれ。子ども：(きんぴら。)

いいぞ。子ども：(ごぼう天。)

いいぞ。かわいい子どもだなあ。今日はせっかくだから、ごぼうについてひとつ教えてやろう。

ぼくは色黒だが、水を流しながらタワシでこするとかなり白くなるぞ。そこにごぼうを持って来たから、後で水を流しながら、タワシでこすってみてくれ。ごぼうを使った料理を今度は持って来てやるぞ。これで帰るよ。さようなら。子ども：(さようなら。)

ごぼうさん、ひとつ教えてくれたね。何だったかな。子ども：(たわしでこすると白くなる。)

そう。タワシでこすると白くなるって言ったね。ほんとかなあ。にんじんをタワシでこすると白くなるかな。ならないよね。ごぼうさんが持って来てくれたごぼうをタワシでこすってみたいお友だちはいるかな。

(子ども手を上げる) たくさんいるね～。じゃあ、いっしょにやってみようか。

### ③-2 「ごぼうくんふたたび」

これから畑のお話をします。この畑、見覚えあるかな。何ができたか抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか めいてみよー

何だろうね。子ども：(ごぼう。)

そうだね、ごぼうだね。どんなごぼうかな。子ども：(しゃべるごぼう。)

ごぼう：そうだ。よく覚えていたな。今日はぼくのすごいところを教えてやろう。

ぼくは始め小さな、小さなごぼうの種だった。それが、ひとりでがんばって、大きくなるよ、大きくなるよと思って、ひとりでこんなに大きくなった。これはすごいぞ。

本当かな。ひとりで野菜は大きくなれるのかな。雨は降らなかったの。

ごぼう：いや、雨は降った。雨が降らないと畑がカラカラになって、ごぼうも枯れてしまうからな。

じゃあ、雨のおかげで大きくなったのですね。

ごぼう：そうだなあ…。

太陽は照らなかったの。

ごぼう：いや、太陽は照った。ぼくたち野菜は、太陽の光を浴びて、大きくなる。お天道さまがないと、野菜は大きくなれない。

じゃあ、太陽のおかげで、大きくなったのですね。

ごぼう：そうだなあ…。

風は吹かなかったの。

ごぼう：いや、風は吹いた。ぼくたち野菜は空気がないと生きていけない。野菜は空気を吸って大きくなる。

じゃあ、空気のおかげで、大きくなったのですね。

ごぼう：そうだなあ…。ぼくがこんなに大きくなったのも、雨や太陽や空気のおかげだったなあ。

そうだ。今日は、約束どおり、ごぼう料理を持って来てやったぞ。何か知っているか。

(ごぼうチップスを見せる)

子ども：(ごぼうチップス)

ごぼう：そう、ごぼうチップスだ。どうやってつくるのか分かるか。子ども：(うすく切る)

ごぼう：そうだ。子ども：(油で揚げる)

そうだ。かわいい子どもだなあ。皆でこのごぼうチップスを食べてくれ。これで帰るよ。

さようなら。子ども：(さようなら)

第4話は「日陰のたまねぎくん」。バケツを被せられて、葉が黄色になって枯れそうになった玉ねぎが雨と太陽の光と空気を得て、成長する。第3話のつながりで発想した。うちの表裏に雨と太陽を描いて小道具とした。

### ④ 「日陰のたまねぎくん」

これから畑のお話をします。この畑は、わたしが母からゆずり受けたもので、大切に野菜を育てています。

もう、野菜が出来ています。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか めいてみよー

これはなんだろうね。しろくてまるい形です。子ども：(かぶ)

かぶってという声が聞こえたよ。かぶかな？

かぶ登場：失礼ね。かぶは私よ。どこが違うかよく見てちょうだい。はっぱがちがうね。かぶのはっぱはギザギザしています。かぶは煮込むと甘くて柔らかくてとってもおいしいね。こっちのはっぱは筒みたいにまっすぐです。(ヒント ねぎのなかまだよ) 子ども：(たまねぎ)

たまねぎ：そうです。たまねぎです。ぼくは新たまねぎ。皮が白い

けど、日陰につるしておくよ、外側だけだんだん茶色になってくるよ。外の皮が守ってくれるので、中身は乾きません。たまねぎおいしいよ。

あれ、バケツがかぶさっている。誰かが置いたのかな。(バケツを取る)

黄色いはっぱの野菜があるね。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ なーにかできた なーにができたか めいてみよー

これもたまねぎみたい。

ひかげのたまねぎ：うえーん。



誰かがバケツをかぶせちゃって、雨があたらないので、  
のどがカラッカラ。太陽の光が当たらないので、中は真っ暗。  
風もふかないので、息が苦しくて、もう枯れちゃいそうだよー。  
うえーん。

わーたいへん。でも、まだ枯れてないよだね。もう一度埋めてみましょう。

(パラパラ)～空き缶の底をバチで叩く 雨の面のうちわを出す

あ。雨がふってきたよ。

歌：あーめ あーめ あーめがふる あーめがふるから おおきくなーれる  
みんなも、たまねぎくんの気持ちになってみよう。雨がふってどうだった。  
そう。とってもうれしいね。

黄色いはっぱの間から緑のはっぱが出てきました。

(チカチカ)～シンバルをバチで細かく叩く 太陽の面のうちわを出す

あ。今どうなった？そう太陽が照ってきたね。

歌：たーいよう たーいよう ひーかーあっている ひーかりが あるから  
おおきくなーれる。

たまねぎくんどんな気持ちかな。そう、とっても気持ちがいいね。

みどりはっぱが伸びてきました。(かくしていた別のたまねぎの葉を出す)

(ビュー ビュー)～新聞紙を揺らす うちわで扇ぐ

あ。どうなった？そう風がふいてきたね。新鮮な空气がいっぱいです。

歌：くーき くーき くーきがある くーきがあるから おおきくなーれる。

たまねぎくん新しい空气をいっぱい吸っているだろうね。黄色のはっぱが枯れて落ちました。(黄色の葉を隠す)

雨の日、晴れの日、風の日、いろんな日がありました。

何日かたって、葉っぱがぐんぐん伸びて来ました。大きくなったかな。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか ぬいてみよー  
大きいのができました。

おおきくなったたまねぎ：みんなありがとう。雨と太陽を浴びて、空气もいっぱい、  
ぼくは柔らかい畑の中で、どんどん大きくなったよ。みんな  
玉ねぎはどんな風にして食べる？  
カレー？いいね。玉ねぎは肉料理にもびったり。  
すきやき？おいしいよね。  
おいしいたまねぎ、いっぱい食べてください。  
ぼくはこれから市場に行きます。  
さようなら。

歌：はーたけ はたけ いいのができた いいのができて おしまいよー

第5話は「ごぼう だいこん にんじん」。ごぼう、だいこん、にんじんが風呂に行く話。のれんと湯船用木箱を製作した。のれんの文字はろうけつ染めで仕上げた。湯船はそれらしく見せるためにタイルを貼り、タイル用目地剤で仕上げた。洗面器に見立てた幼児用食器とタオルに見立てたタオル地の長方形のハンカチを小道具とした。にんじんとだいこんは初め表を焦げ茶色、裏を茶色にした筒状のカバーをつけておく。湯上りの野菜たちは保育園の給食室に向かう。冬に演じるとよい。

#### ⑤「ごぼう だいこん にんじん」

これから畑のお話をします。寒くなりました。冬の野菜がもう出来ています。

冬の野菜にはどんなものがあるかな。

子ども：(かぶ) (だいこん) (はくさい)

そうですね。今言ってくれた野菜が出来ているかな。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか ぬいてみよー  
なんだろうね。これ、前にぬいたことがあるよ。長いね。やっとなげました。

何だか分かるかな。子ども：(ごぼう。)

そう、ごぼうだね。

ごぼう：そうだ。ぼくはごぼうだ。

そこにふたつ野菜が生えているだろ。いろいろ話をして、友達になった。



一緒に出かけたいところがあるから、その野菜もぬいてくれ。  
じゃあふたついっぺんにぬいてみるね。  
歌：は一たけ はたけ いいのができた なーにができたか ぬいてみよー  
何でしょう。ひとつは太くて長いね。もうひとつは中くらいだね。  
どちらも、土の色ですね。  
ごぼう：なあ、おふたりさん、今日はいい所に行かないかい。  
太い野菜：いい所ってどこかしら。遠い所かしら。  
ごぼう：行ってみれば分かるよ。歩いて行けるよ。  
太い野菜：一緒に行くわ。楽しみだわ。  
中くらいの野菜：わたしも行くわ。（「ゆ」のれんを設置）  
ごぼう：ついたぞ。ここに入ろう。  
太い野菜：「ゆ」って書いてあるわ。  
ごぼう：みんな、ここがどこか分かるか。そう、お風呂屋さんだね。  
銭湯とも言うね。温泉かもしれないね。  
お風呂屋さんに行ったことがあるお友だちはいるかな。  
おお、いっぱいいるね。さあ、入ろう。（のれんをくぐる）



（のれんを「男」に掛け替える）  
ごぼう：ぼくは男湯に入るよ。また後でね。  
ごぼうさんは男湯に入りましたね。  
どうするのか見てみましょう。  
（ごぼううろろして、洗ったのかどうか分からないくらい。  
ざぼつと掛け湯をして、湯船に入るや、すぐ出てしまう。）  
歌：おふるを さっさと できましたよ ごぼうさんは つちのいろ  
ごぼうさん、洗ったのか、洗わないのか分からない位で、  
すぐ出てしまいましたね。こういうのをカラスの行水と言います。



（のれんを「女」に掛け替える）  
太い野菜と中くらいの野菜：私たちはこちらに入りましょう。  
（中くらいの野菜は、ささっと洗って、裏向きにし（焦げ茶→茶色）、  
汚れが落ちたことを示す。）  
少しきれいになりましたね。  
中くらいの野菜：私は湯船につかるわ。（湯船に入る）  
（太い野菜にかけ湯をして、ミニタオルでごしごしこする。）  
太い野菜はごしごしこすっています。  
せっけんをたっぷりつけているようですよ。（せっけんをつける仕草をする）  
（裏向きにし、かけ湯をして、茶色の覆いを下から抜き取る。）  
大根：あら、私、真っ白になったわ。  
この野菜はなんでしょう。子ども：（大根）



そう。大根ですね。  
歌：おふるで ごしごし あらったよ だいこんさんは まっしろよ  
大根さんは、よく洗って真っ白になりました。（大根湯船に入る。野菜に声を掛ける。）  
大根：ずいぶん長く入っているけれど、大丈夫？  
中くらいの野菜：私、長く入り過ぎたわ。もう、の、の、…。  
何て言っているのかな。子ども：（のぼせた。）  
そう、のぼせたみたいですね。  
大根：一緒に出ましょう  
中くらいの野菜：そうね。一緒にでるわ。  
（中くらいの野菜の覆いを湯船に残して中身を引き抜く。）  
大根：あら、あなた、赤くなったわ。  
中くらいの野菜：そうね、私赤くなったわ。  
この野菜はなんでしょう。子ども：（人参）  
そう人参ですね。  
歌：おふるに なーがく つかったよ にんじんさんは まっかっか



人参さんは、お風呂に長くつかり過ぎて、真っ赤になりました。  
(のれんと湯船を片づける)

人参さんと大根さんは休憩室でごぼうさんと会いました。

ごぼう：おや、おふたりさん、ずいぶん変わったね。

大根：私は真っ白になったわ。

人参：私は真っ赤になったわ。ごぼうさんは変わらないわね。

歌：おふろを さっさと でしたよ ごぼうさんは つちのいろ

歌：おふろで ごしごし あらったよ だいこんさんは まっしろよ

歌：おふろに なーがく つかったよ にんじんさんは まっかっか

ごぼうさんはあまり洗わなかったので茶色いまま。

大根さんはごしごし洗ったので真っ白。

人参さんは湯船に長く浸かってのぼせて真っ赤になりましたね。

ごぼう：さあ、これから、給食室に行かないか。

給食の先生が、来て欲しいって言っていたよ。

人参・大根：何の用事かしら。

ごぼう：体を温かくしたいって言っていたよ。行ってみるかい。

人参・大根：そうね。給食室に行きましょう。

ごぼうさんと大根さんと人参さんは給食室に行きました。

歌：はーたけ はたけ いいのができた いいのができて おしまいよー



第6話は「いもの苗植え」じゃがいもとさつまいもの先生が登場し、芋の苗植えの方法を教える。苗が成長し、収穫するまでを演じる。じゃがいもは上部の芽が出た所を4等分して植えるので、芽が出たいもを作っておき、ゴムひもで1つにまとめる。できたじゃがいもは野球のボールのように、2枚の布を丸く縫って製作する。じゃがいもの地下茎やさつまいものつるはカラー紐を使っている。つるを葉に付ける際は、別のフェルトで押さえ、縫いつける。さつまいもは伸びたつるを切って植えるので、いもとつるをファスナーテープで固定し、取り外しができるようにする。最後に焼芋を作って見せる。畑の上にクラフト紙を染めて切りぬいてつくった落ち葉を置く。小さな火鉢を使って、アルミホイルに包んだ生芋を埋めて火を出す。そして、あらかじめ隠しておいた、アルミホイルに包んだ焼芋を取り出して見せる。

#### ⑥「いもの苗植え」

これから畑のお話をします。なにか出来ていますね。ぬいてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか ぬいてみよー

これはなんだろうね。大きな葉っぱの下に丸い形のものがあったよ。

(ヒント いものなかまだよ)

山芋はもっと長いかもね。そうです。里芋です。いいのができました。

今日は芋のお話をします。専門の先生が来て下さっています。

名前はイモ先生です。

一緒に呼んでみましょう。子ども：(イモ先生)

イモ先生登場：はい。おはようございます。私はジャガイモのイモです。

今日は皆にジャガイモの育て方を教えましょう。ジャガイモの上と下の見分け方を知っているかな。

(芽の出たジャガイモを見せる) これではどうかな

イモ：そうそう。芽の出ている方が上だな。

この、てっぺんの芽の出ているところを4つに切ります。

(4つに分けたいもを見せる)

そうして、どうするのか。そうだね。畑に植えるぞ。

この小さな芽が伸びていくのだ。(ひとつを植える)

野菜が育つのに必要なものがあつたが、何かな。

そうだ。雨がよくだ。よく勉強しているな。

皆、雨を降らせてくれ。いいぞ。

(子ども：雨が降る様子を演じる)

歌：あーめ あーめ あーめがふる あーめがふるから おおきな一れる

イモ：それから何が必要かな。そうだ。太陽の光がよくだ。皆、太陽を輝かせてくれ。いいぞ。



(子ども：太陽が輝く様子を演じる)

歌：たーいよう たーいよう ひーかあっている ひーかりがあるから おおきくなーれる  
イモ：それから、もっとあったな。そうだ。空気が必要だ。皆、風をおくってくれ。いいぞ。

(子ども：風が吹く様子を演じる)

歌：くーき くーき くーきがある くーきがあるから おおきくなーれる  
イモ：雨が降って、太陽が照って、空気があると、大きくなれる。

夏ごろに収穫できるぞ。

大きく育ちました。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか めいてみよー

イモ：いいのができた。じゃがいものおいしい食べ方を知っているか。

にくじゃが。いいね。フライドポテト。わたしも好きだよ。

ポテトサラダ。これもまた、おいしいね。

じゃがいもには熱に強いビタミンCがたっぷり含まれている。

これからも、じゃがいも料理を沢山食べてください。

イモ先生ありがとう。

イモ：さようなら。子ども：(さようなら)

もうひとり、女の先生も来て来てくれています。イモヌ先生です。

一緒に呼んでみましょう。子ども：(イモヌ先生)

イモヌ先生登場：グッドモーニング。

マイネーム イズ イモヌ。

ナイス チュー ミーチュー。

イモヌ：わたしは日本語も話せます。

皆さんにさつまいもの植え方をお教えしましょう。

さつまいもの植え方を知っていますか。

そう、さつまいもを丸ごと植えてもいいけど、

もっといい方法があります。

さつまいもをあったかい場所に植えておくと、

沢山のつるが伸びてきます。

(さつまいもに3本のつるをつけて見せる)

そう、つるを植えるのです。

つるは切ってから、しばらく暗い所に置いておくと

根がでてきます。(つるをはずして見せる)それを植えます。

つるを畑に植えましょう。(つるを植える)

イモヌ：皆、雨を降らせてください。太陽を輝かせてください。

風を吹かせてください。秋に収穫できますよ。

大きく育ちました。抜いてみましょう。

歌：はーたけ はたけ いいのができた なーにができたか めいてみよー

イモヌ：いいのができましたね。

皆さん、さつまいものおいしい食べ方知っていますか。

焼きいも。いいですね。

いもの天ぷら。甘くておいしいですね。

スイートポテト。いろいろありますね。

今から、ひとついも料理をつくって見せます。

焼きいもです。枯葉を持って来ました。(枯葉を畑に乗せる)

枯葉を少し燃やしてから、(火を出す)

灰の中にアルミホイルに包んだいもを入れます。

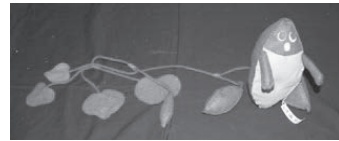
(いもをアルミホイルに包んで火鉢を使って枯葉の下の土に埋める)

待っている間、やきいもの歌と一緒に歌いましょう。保育園や幼稚園で習ったかな。グー、チョコキ、パーのあの歌です。

歌：やきいもやきいも おなかがグー ほかほかほかほか あちちのチー

たべたらなくなる なんにもパー それ やきいもまとめて グー

チャーパー





イモークス：(火を畑の中に戻す) できたかな。  
 (火鉢で隠しておいた焼きもを取り出す)  
 あちあち あちち (アルミホイルをはがす)  
 おいそうなやさいもができました。  
 いいおいがしますね。みなさん、かじってみますか。  
 (やさいもの皮をむいて、皆の方に差し出す)  
 おいしかったですか。ありがとう。  
 これで、お別れしますね。さようなら。子ども：(さようなら)  
 歌：はーたけ はたけ いいのができた いいのができて おしまーいよー

### (3) 挿入歌

「畑のおはなし」の歌は著者がつくり、音楽担当教員に楽譜を作成してもらった。

テーマⅠ

1. はたけ はたけ いいのができた 畑に火ができたか ぬいてみよう  
 2. はたけ はたけ いいのができた いいのができてる おしまーいよ

テーマⅡ

1. あめ あめ あめがふる あめがふるから おおきくなれる  
 2. たいよう たいよう ひかっている たいようがあるから おおきくなれる  
 3. くさ くさ くさがある くさがあるから おおきくなれる

テーマⅢ

1. おふろと おふろ ぞしたよ じいちゃん ちのい  
 2. おふろで おふろ あったよ だいこん さんま  
 3. おふろに おふろ かったよ にんじん さんま

### (4) 実演

本学では幼児と保護者を対象とした「子育て支援セミナー」を開催している。平成24年度「子育て支援セミナー」で「畑のおはなし(日陰のたまねぎくん)」を演じることができた。著者が簡単な歌をつくり、音楽担当教員が木琴で伴奏をして演じた。時々歌が入ることで、進行がよかった。料理名を答えてもらうつもりで、「玉ねぎはどうやって食べるかな。」と聞くと「お箸で食べる。」との答え。発達をふまえた問いかけにすることがある。



娘が通う小学校3年生の「読み聞かせ」の活動で演じた際、野菜を抜くときの歌を教えると、1カ月後に次の話を実施した際にも歌ってくれた。野菜の成長には水や光や空気が必要という「日陰のたまねぎくん」の話は内容が堅かったのか不評であった。その他「いもの苗植え」「ごぼう、だいこん、にんじん」を演じた。お風呂の話が最も喜んでくれた。遊びの要素を加えたり、感情を込めた表現を工夫したりするとよい。

### (5) 製作指導

本学では保育士と幼稚園教諭を対象に「保育研修会」を開催している。平成24年度「保育研修会」で「畑のおはなし」を取り上げ、実演の後製作指導をした。受講者は立体的に野菜を作り上げる技能を習得した。



また、保育科学生対象に平成 24 年度後期に「畑のシアター製作」90 分×5 回の授業を担当した。履修した数名の学生にとっては木箱製作や土色袋製作が困難に感じられていたようなので、段ボール箱と袋状にしたクラフト紙に新聞紙を入れた紙クッションで代用した。

### 3. まとめと今後の課題

他科目担当教員との交流によって、普段は思いつかない、教具を製作することができた。また、それを様々な場面で活用できた。他科目担当教員との交流によって新たなものができることを実感した。

布野菜を「生活」担当の教員に貸したところ、受講生がお話を創作して演じたとのことである。著者が想定した話を離れて、様々に演じることができるのもこの教材の特長の一つである。

幼稚園教諭や保育士養成課程において、美術担当教員は学生が教具を製作する際の例を示し、技能向上のための支援をすることができる。著者は平成 25 年度保育科対象「図画工作」において「パネルシアター製作」を配色技能習得のための課題と位置付け、90 分 4 回で実施している。このような教具製作支援を今後も継続していきたい。

今回の作品では野菜に親しむことはできるが、食べることが体をつくり、健康を維持するということろまでは触れられていない。今後は「ぱくぱくおばけちゃん」というテーマで人形等を製作し、幼児が食べることは大切だと実感できるようなものを製作したい。

#### 参考資料

『そだててあそぼう[3]サツマイモの絵本』武田英之編 仁科幸子絵 社団法人農山村文化協会発行

『そだててあそぼう[4]ジャガイモの絵本』吉田 稔編 斉藤恭久絵 社団法人農山村文化協会発行